

令和6年度佐々神田保育園事業報告書

1 保育所の運営

(1) 定員 170 名

(2) 年齢別・月別入所児童数（各初日現在）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳児	6	8	10	13	13	17	18	20	22	22	23	25	197
1～2歳児	53	55	56	56	56	57	57	57	57	57	58	58	677
3歳児	31	32	32	32	32	33	33	33	33	33	32	32	388
4歳児以上	59	59	59	59	58	58	58	58	58	58	58	58	700
計	149	154	157	160	159	165	166	168	170	170	171	173	1912

(3) 職員数 令和 6 年度始 41 名 令和 6 年度末 40 名

(4) 職員の異動等

①採用

年月日	職 名	名 前	年 齢	資 格	備 考
R6. 4. 1	保育士			保育士資格	常勤的非常勤
R6. 12. 1	保育士			保育士資格	常勤的非常勤

②異動

年月日	職 名	名 前	年 齢	資 格	備 考
R6. 4. 1	保育士			保育士資格	配置換増←楠栖保育所
R7. 3. 31	副園長				配置換減→日字保育所

③退職

年月日	職 名	名 前	年 齢	資 格	備 考
R6. 4. 30	保育士		24	保育士資格	一身上の都合により退職
R6. 12. 31	保育士		31	保育士資格	一身上の都合により退職
R7. 3. 31	保育士		59	保育士資格	一身上の都合により退職
R7. 3. 31	保育士		26	保育士資格	一身上の都合により退職
R7. 3. 31	保育士		66	保育士資格	一身上の都合により退職

(5) 職員会議の開催状況

職員会議は月に2回以上、毎昼にミニカンファレンスをひらき情報共有を徹底した。また、緊急を要する議題がある場合にはすみやかに開催し、保育に支障のない範囲で職員が参加した。会議の内容は、各クラスの子どもの様子・保護者からの相談内容などで、職員相互の共通理解を深めることに努めた。すべての会議は議事録としてまとめ、全職員に周知した。保育計画、行事等の打ち合わせにおいては、さまざまな気づき、反省をもとに計画につなげた。

新聞やメディア等で取り上げられる幼児に関する事故や不適切な保育などの記事について、積極的に意見の交換をした。また、職員一人ひとりが保育の見直しに努めた。保育者の保育の姿勢や声のかけ方、子どもたちへの対応の仕方など、セルフチェックリストを活用して職員会議の場で話し合った。

給食内容検討会は月1回開き、各クラスの嗜好や喫食状況について話し合い、献立の見直しや、食育に結びつけた。内容は議事録としてまとめ、全職員に周知した。

2 保育の実施状況

「命を大切に」の保育理念を柱に、保育課程及び保育計画を立て、子どもの情緒が安定した最もふさわしい生活の場を提供することに努めた。子ども一人ひとりが自己を十分に発揮して活動できるような保育を展開した。日々の生活や行事等は、「子どものやってみたい気持ち」を大切に育みながら、可能な限り子ども一人ひとりに合わせた保育を行った。職員は保育の質の向上に努め、子どもが安心して過ごせる環境作りを目指した。

短時間の保育参観ではなく、1日保育参観（午前9時から午後4時まで）を行った。ほぼ全ての保護者が参加された。園でのありのままの子どもの様子や保育者の保育の様子を保護者へ見て頂くことができた。保護者との懇談の時間を設け、子どもの様子や悩み事などじっくり話すことができた。また、アンケートを実施し、家庭での様子との違いや悩み事など、潜在的な保護者の思いを汲み取るように努めた。保護者が保育に参加する参観形式をとっているため、従来の保育参観に対するイメージから戸惑われた保護者がごく僅かいらしかった。次年度はより丁寧な説明を心がけたい。

行事については、「行事のための保育」ではなく、日々の保育の積み重ねが披露できるよう心がけた。運動会は全園児で参加した。年長クラスがマーチング演奏を行うなど、大いに盛り上がった。お遊戯会は佐々町の文化ホールにて、全園児が参加した。

地域活動について、2ヶ所の養護施設まで出向き、マーチング演奏や歌唱を行った。施設の方は大いに喜ばれ、子どもたちもいつもと違う緊張感を味わうことができた。バスハイクは、遠方の公園や施設に行き思いっきり体を動かすなど、いつもと違った雰囲気を楽しんだ。また、乗り物のルール、他人がいる場所でのルールを学ぶことができた。

食品アレルギーがある子への対応として、チェック表を使って献立の相違を把握し、目視、声掛け、食器による色分け、専用トレイ、個別テーブル、ネームプレート等で職員間の情報の共有を図り、安全に努めた。

食育においては、佐々町学童農園へ行き、芋や大根の苗挿・種蒔・収穫をして食の大切さを学んだ。また、園庭のプランターでオクラを育て、収穫したものは給食の食材に使用し、野菜が苦手な子もオクラを美味しく食べることができた。園庭下の食育農園では、子どもたちに育てる喜びを感じさせることができるようにしていきたい。誕生会の時にはラップを使っておにぎりやクッキーを作り、ひなまつりの給食のときにはカップちらし作りなど、食べる楽しさや食の大切さが感じられる保育になるよう心がけた。

安全・健康面では、子どもたちの体調を保護者提出の健康カードにて把握し、午前・午後の検温、視診にて体調管理に努めた。大雨や台風など、避難情報が行政から出た場合に備えて、全家庭に登録していただいている緊急メールにて、早めの降園ができるようにした。例として、台風が接近した8月28日・8月29日・11月1日に佐々町より避難情報が出た時には、緊急メールを発信し、すみやかな降園を開始することができた。また、不審者情報などが警察署より提供された場合も、緊急メールにて保護者へお知らせした。事故防止対策として、遊具の点検、室内の安全保守を行い、毎週金曜日に点検項目を確認しながら危険箇所、破損がないかを点検し、修理が必要な箇所は迅速に対応し、子どもたちの安全に努めた。

3 外部講師

指導内容	講師名	指導回数	外部委託会社
漢字保育指導		午前9時半より 随時 年7回	登龍館
幼児体育教室指導		午前10時より 毎週火曜日 年19回	いむら体育教室
英語遊び指導		午前10時より 毎週木曜日 年40回	ECC 英語教室

4 年間行事の実施状況

実施年月日	行 事	実施年月日	行 事
4. 1	入園・進級式	4. 9	花まつり（近隣の延命寺）
4. 17	誕生会	4. 18	漢字保育研修
4. 19	藤組バスハイク（千本公園）	4. 23	梅組バスハイク（福井洞窟）
4. 26	親子遠足	4. 30	防災訓練
5. 1	交通安全教室	5. 8	梅組バスハイク（神崎鼻公園）
5. 10	漢字保育研修	5. 13	藤組バスハイク（神崎鼻公園）
5. 21	防災訓練	5. 23	芋苗植付け（学童農園）
5. 24	誕生会	5. 28	藤組バスハイク（3ヶ町アーケード散策）
5. 29	梅組バスハイク（パールシーリゾート） 尿検査提出	6. 4	藤組バスハイク（ポットホール公園）
6. 5	梅組バスハイク（皿山公園）	6. 6	歯科検診
6. 12	藤組バスハイク（田平公園）	6. 14	梅組バスハイク（でんでんパーク）
6. 17	藤組バスハイク（御橋観音公園）	6. 19	梅組バスハイク（松浦道の駅）
6. 21	誕生会	6. 26	防災訓練
6. 28	旅芸人福尾野歩「野歩さんと遊ぼう会」	7. 2	梅組バスハイク（北松農業高等学校にて動物触 合い体験）
7. 3	交通安全教室	7. 5	七夕会
7. 9	藤組バスハイク（北松農業高等学校にて動物 触合い体験）	7. 17	防犯訓練
7. 22	内科検診	7. 23	防災訓練
7. 24	誕生会	7. 26	漢字保育研修
8. 2	夏まつりごっこ	8. 20	誕生会
8. 22	漢字保育研修	8. 27	防災訓練
8. 28	交通安全教室	9. 13	誕生会
9. 18	大根種植付け（学童農園）	9. 20	漢字保育研修
9. 25	交通安全教室	9. 27	防災訓練
10. 9	検尿提出	10. 10	運動会総練習（未満児）
10. 11	運動会総練習（以上児）	10. 19	運動会
10. 21	内科検診	10. 23	誕生会
10. 24	芋掘り（学童農園）	11. 6	笑福マーチング訪問
11. 7	防災訓練	11. 11	バスハイク（千本公園）
11. 12	虹の里マーチング訪問	11. 13	防犯訓練
11. 15	鍛錬遠足（近隣散歩）	11. 20	交通安全教室
11. 22	誕生会	11. 27	佐々小学校交流会「森のワクワクランド」
12. 2	総合防災訓練	12. 4	口石小学校訪問
12. 9	大根引き（学童農園）	12. 12	お遊戯会総練習（未満児）
12. 13	お遊戯会総練習（以上児）	12. 21	お遊戯会
12. 24	誕生会	12. 25	笑福クリスマス会招待参加
12. 28	保育納め	1. 4	保育始め

1. 14	防災訓練	1. 15	佐々町四ヶ園交流会「さざっこニコニコ会」
1. 22	交通安全教室	1. 24	漢字保育研修（カルタ大会）
1. 31	なわとび大会	2. 3	節分会
2. 14	防災訓練	2. 19	誕生会
2. 26	マラソン大会（未満児） 藤組口石小学校交流会	2. 28	マラソン大会（以上児）
3. 3	ひなまつり	3. 4	藤組バスハイク
3. 5	誕生会	3. 7	桜組バスハイク（ポットホール公園）
3. 12	お別れ遠足（神田公園）	3. 15	卒園式
3. 17	桜組バスハイク（田平公園）	3. 18	防災訓練
3. 25	藤・桜組バスハイク（皿山公園）	3. 26	梅組バスハイク（皿山公園）
3. 27	防犯訓練	3. 31	お別れ会

・ 1 日保育参観 参観日

7/8～7/12、8/5～8/9、9/9～9/13、10/28～11/1、1/27～1/31、2/17～2/21、3/3～3/7

その他保護者が希望された日

5 職務分担表（令和6年度最終版）

職名及び氏名	職 務 内 容	
園長 渡邊エミ子 (苦情解決責任者)	1 理事会の決定事項の執行	5 職員の資質向上（研修）
	2 運営管理（人事・労務・施設・防火）	6 関係機関、保護者会等との連携及び地域活動
	3 保育業務の管理（保育課程の作成）	7 苦情解決責任者
	4 財務管理	8 虐待防止責任者
副園長	1 園長の補佐	2 運営管理、保育業務の補佐
主任保育士 (苦情受付担当者)	1 園長の補佐	6 保健衛生に関する計画及び指導
	2 職員相互の連携	7 給食に関する助言指導
	3 保育課程の作成及び保育内容の指導助言	8 職員会議の計画と実施
	4 園内研修の企画及び指導	9 小学校との連携
	5 園行事に関する計画及び指導	10 苦情受付担当者
保育士 共通事項	1 指導計画の作成	5 調理員との連携
	2 保育実務	6 保護者との連絡及び指導
	3 保育に関する記録	7 園だよりの作成
	4 園児の健康と安全管理	
保育士	＊藤組の担任	
保育士	＊梅組の担任	
保育士	＊桜組の担任	
保育士	＊桃組の担任	
保育士	＊堇組の担任	
保育士 看護師	＊蒲公英組の担任	
事務員	1 保育園の事務一般に関すること	
保育士	1 園舎内外の掃除点検	2 共通遊具の整理、保存
保育士	1 保育材料に関すること	2 図書の管理
保育士	1 交通安全及び避難訓練に関すること	2 備付備品に関すること
看護師	1 保健衛生に関すること	3 健康診断及び歯科健診、尿検査に関すること
	2 医薬品の整備・保管	4 検便に関すること
衛生推進者	1 衛生推進に関すること	
保育士	1 延長保育事業に関すること	
保育士	1 障がい児保育に関すること	
保育士	1 食育に関すること	
調理員	1 献立の作成及び給食材料の発注・検収	4 炊具、食器の保管
	2 給食人員の把握	5 給食事務
	3 調理・配膳	6 園舎内外の清掃、整頓に関すること
嘱託医	1 園児及び職員の健康診断	2 園児及び職員の健康に関する指導
嘱託歯科医	1 園児の歯の健診	2 園児及び職員の歯の健康に関する指導

6 施設等の整備状況

(1) 施設の改築・修繕（100 万以上）

年 月	工 事 名	金 額
なし		

(2) 固定資産物品（10 万以上）の購入

年 月	物 品 名	金 額
なし		

7 保育所の自己評価

(1) 職員の自己評価

保育の質の向上を図るため、自らの行う保育について常に子どもの視点に立つことを意識した。自己評価を年に 2 回に分けて行い、反省を踏まえつつ次年度の目標をたてるようにした。

(2) 保育園における自己点検・自己評価

保育園の実態に照らし合わせ、年度末にクラス単位で評価を見直した。最終的には施設長の責務のもと保育園全体の点検・評価につなげた。

園全体の評価を 4 段階で表し、外部への公表も行い、当園の現状及び改善点を明らかにした。

8 職員の研修参加状況

複数の外部研修に参加することができた。また、キャリアアップ研修も多数の職員が e ラーニングで参加でき、スキルアップにつながった。さらに、今年度は長崎県幼児教育センターより幼児教育アドバイザーの派遣を受け、園内研修を行った。公開保育形式で行い、日々の保育を振り返る機会となった。研修後は職員会議で報告を行い、内容を共有した。意見交換や情報交換を行うことにより、保育の質の向上・保育認識の再確認ができた。また、会議内容は議事録としてまとめ、全職員に周知した。

月日	研修会名	参加者名
5. 3	食育研修会	
6. 7	運動会実技研修会	
6. 24	施設長研修会	
7. 10	保育士部会研修会	
8. 8～9	石井方式夏期指導者研修会	
8. 27	保育研修会	
9. 18	主任・主幹研修会	
10. 22	保健研修会	
11. 19	幼児教育アドバイザー訪問研修（園内）	全保育士・看護師職員
12. 6	保育部会（食育班）研修	
月日	キャリアアップ研修名（集合・DVD・e ラーニング）	参加者名
12. 28～	乳児保育	
12. 26～	乳児保育	
1. 16～	保健衛生・安全対策	

1. 17～	マネジメント	
12. 26～	保護者支援・子育て支援	
12. 28～	保護者支援・子育て支援	
1. 11～	障害児保育	
12. 28～	食育・アレルギー対応	
12. 17～	食育・アレルギー対応	
1. 4～	幼児教育	
12. 9～	幼児教育	

・法人主催漢字保育園内研修 外部講師（登龍館）

4/18・5/10・7/26・8/22・9/20・11/28・1/24

9 意見・要望・苦情・不満処理受付状況 受付1件

- ・保護者の方より、別のクラスの担任ではあるが子どもの名前を間違えて呼ばれるので改めてほしい、また、職員間の情報共有がされていないことがあったため改めてほしいとの申し出があった。土曜日にお子さんを預ける旨を担当に伝えられていたが、担任同士で情報共有ができていなかったことが本件の要因としてあげられる。保護者へ謝罪の上、職員会議で子どもの名前の呼び方、また、職員間の情報共有の方法について見直しを行った。会議の内容は全職員で共有した。

保育園（所）における自己点検・自己評価

（園名 佐々神田保育園 ）

・ A、B、C、Dの4段階評価

A：大変良い
B：良い
C：一部検討を要する
D：改善を要する

◎ 保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内 容	評 価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	（１）保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた保育課程を設定しているか。		○			・前年度の評価・反省を行い、全体的な計画を作成した。 ・日々の保育を振り返りながら指導・経過記録を記入することで、反省点が明確化され改善することができた。 ・子どものことで心配なことがある場合や、保護者から相談があった場合、保護者と連携しながら保育内容を検討した。 ・各クラス、園全体で保育目標について共通理解をし、実践に繋げるように努めた。 ・一人ひとりの子どもの意欲が引き出されるような言葉かけを意識し、自信が持てるよう働きかけをする保育内容とした。
	（２）目標は、施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	（３）目標は、情勢を鑑みて子どもの最善の利益になっているか。		○			
	（４）目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
	（５）目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	○				
保育について	（１）指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				・園児の実態や地域性、社会情勢など、総合的に判断して保育を行った。 ・臨機応変に計画を変更、見直しを行い園児にとって最適な保育となるようにした。 ・保育士が身近にいて一人ひとりの子どもに寄り添うよう努め、気持ちの安定を図った。
	（２）保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○				
	（３）環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。		○			
	（４）評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○			
日時程	（１）１日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい。	○				・行事や時間に応じて、臨機応変に各クラスが保育を進めることができた。
行事について	（１）行事の種類や実施回数は適切か。	○				・「行事のための保育」ではなく、日々の保育の積み重ねを保護者へ見ていただくことを意識した。 ・一部保護者の負担となってしまうため、ハロウィンの仮装登園は廃止した。園貸出の衣装で代替した。 ・クリスマスはご家庭によってさまざまな過ごし方（プレゼントの有無など）があるため、クリスマス会を廃止した。 ・掲示板やお手紙で行事予定内容等を知らせた。 ・行事の規模や開催方法について、臨機応変に対応した。
	（２）行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			
	（３）乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	○				
	（４）計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				

◎ 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目		内 容	評 価				意見・改善策
			A	B	C	D	
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。		○			・職務分担表で職員の職務内容を明確に知らせることで協働しやすい体制作りに努めた。 ・係や仕事の分担・割り当ては年度が始まるまでに決め、引継ぎ等も適切に行った。
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	○				
		(3) 職員の配置は適材・適所か		○			
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。	○				
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	○				・定期的な職員会議はもちろん、毎屋各クラスより職員を1名招集し、ミニカンファレンスを開き、報告・連絡・相談を密に行った。 ・行事前には、必要に応じて職員会議を行い、情報の共有や問題の改善を行った。
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。	○				
	年齢別・クラス経営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標に基づいて設定しているか。		○			・年齢別・クラス目標は保育目標に基づいて設定した。 ・養護と教育を一体的に行う為に、子どもの生活や遊びをみながら、実態に即して設定した。 ・異年齢間のかかりとして、合同保育時の環境設定を工夫したり、運動会やお遊戯会の練習をホールで行い、見守り見守られながら園児同士が多くのかかりをもてるようにした。
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。		○			
		(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定してるか。	○				
		(4) 同年齢及び異年齢時間の効果的な活動の充実を図っているか。		○			
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行なっているか。		○			
		(6) 評価、資料(諸記録)を集積しているか。	○				
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				・年間計画に基づいた対策や訓練・指導を適切に実施出来た。 ・日々の健康管理はもちろん、内科健診、歯科健診、尿検査(3歳児以上)等、適切に行った。 ・避難訓練や交通安全教室は計画通りに実施することが出来た。 ・保健だよりを適宜発行し、家庭への啓発を行った。また、園児が感染症に感染した場合には、掲示板に感染症に関する情報を掲示したり、口頭で保護者へ知らせ、感染拡大を防ぐよう努めた。 ・感染症流行時、場合によっては保健所へ報告をし、連携を図った。
		(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○				
		(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○				
研修	所内研修	(1) 所内研修は、保育目標の具現化につながるものであるか。	○				・幼児教育アドバイザーによる園内研修をはじめて行なった。研修内容は、幼児教育アドバイザーが保育の様子を観察し、その後講評を行う公開保育形式にした。さまざまな気づきをもとに、日々の保育を振り返る機会となった。
		(2) 所内研修の計画・運営は適切か。	○				
		(3) 研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。		○			
		(4) 研修の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。		○			
	所外研修	(1) 各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○				・キャリアアップ研修を多くの職員が計画的に受講した。多岐にわたる研修内容によって乳幼児理解を深めることができた。また、研修内容は職員会議で報告し、保育への還元を行なった。
		(2) 各種研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。	○				

項目	内 容	評 価				意見・改善策
		A	B	C	D	
情報について	(1) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適切に取り扱っているか。	○				・当福祉会の個人情報取り扱いに基づき適切に行えた。
	(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	○				
	(3) 各諸表簿は適切な時間・方法で作成・処理しているか。	○				
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○				・遊戯用具の点検は専門業者による年1回の定期点検や、職員による週1回の安全点検を行う事で適切な管理や使用を行った。 ・防犯カメラや、来園者通知ベル、専門業者による夜間の警備など、不審者対策を行っている。 ・緊急お知らせメールを用いて、速やかな情報伝達が行えるようにしている。 ・必要に応じて情報の提供や注意喚起の掲示を行った。 ・危険箇所がないか、安全点検を週1回行った。 ・遊具の整備及び充実を図った。
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	○				
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。		○			
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○				
出納経理	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○				・各種会計は適切な処理ができた。
開かれた交流・連携の場づくり	施設間交流・連携の場づくり	(1) 他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。	○			・法人内他施設の子どもたちと交流し、友だちの輪をひろげることができた。 ・佐々町内の他保育施設の子どもたちと交流し、友だちの輪をひろげることができた。 ・佐々町内の小学校に就学前の子どもたちが実際におもむき、小学校へ進学する期待をふくらませることができた。また、小学生と交流することもできた。 ・就学前には各小学校と情報を交換し、スムーズに進学できるよう努めた。 ・小学校と情報交換する機会が限られるため、日常的に情報交換するには少々検討をようする。
	施設間交流・連携の場づくり	(2) 他施設等の幼児児童生徒と触れ合う中で(乳)幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。	○			
	施設間交流・連携の場づくり	(3) 指導者どうしが、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。		○		
	施設間交流・連携の場づくり	(4) 参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。		○		
	施設間交流・連携の場づくり	(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。			○	
	家庭・地域社会との連携	(1) 参観時間を制限せず、参観日等を設定しているか。	○			・短時間の保育参観ではなく、1日保育参観（午前9時から午後4時まで）を行い、園でのありのままの子どもの様子や保育者の保育の様子を保護者へ見て頂くことができた。保護者が保育に参加する参観形式をとっているため、従来の保育参観に対するイメージから戸惑われた保護者もごく僅かいらしゃった。次年度はより丁寧な説明を行いたい。 ・高齢者施設を訪問し、駐車場でマーチング演奏を鑑賞していただいた。また、バスハイクなどによって園外へ赴き、社会性を身に着ける機会を作った。
	家庭・地域社会との連携	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。		○		
	家庭・地域社会との連携	(3) (乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	○			
	家庭・地域社会との連携	(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。	○			

項目		内 容	評 価				意見・改善策
			A	B	C	D	
開 か れ た 保 育 所 づ く り	子 育 て	(1) 地域に住む子どもどうし、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。			○		・地域に開かれた保育園を目指し、次年度より園庭開放を計画している。 ・必要に応じて保護者からの相談に応じた。また、相談内容は園長・副園長・主任へ知らせ、場合によっては職員会議で話し合った。 ・子どもの発達や健康状態について心配な場合は、保護者の要望に応じて専門機関の情報を提供した。場合によっては専門機関と園が連携をとった。 ・気になる子や保護者は佐々健康センターと連携をとって情報交換を行った。
	支 援 の	(2) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。		○			
	推 進	(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を取り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○				
	情 報 の 発 信	(1) 保育所だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				・園だより、保健だより、給食献立表は発行日を決めて保護者に配布した。 ・ホームページで行事だけでなく、普段の様子をできるだけ掲載し、保護者が知ることができるよう努めた。
	外 部	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。				○	
	評 価	(2) 保護者の意見を施設運営に反映しているか。		○			